

トビウオ通信 (12月号)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 15 年度イカ釣漁業とスルメイカ資源》

今月は浜田港に水揚するイカ釣漁業によるイカ類の水揚動向と、日本海のスルメイカの資源動向について報告します。

浜田港におけるイカ釣漁業

浜田港における地元小型イカ釣り船によるスルメイカとケンサキイカ(シロイカ)の水揚量の変動を図 1~2 に、また、県外船も含めた浜田港におけるケンサキイカの水揚状況を図 3 に示します。

スルメイカ依然として低調

平成 15 年のスルメイカの水揚量(11月までの集計)は50トンで、前年の90%、平年の29%と低調に推移しました(図1)。水揚金額は1,973万円で、前年並みだったものの、平年の31%に留まりました。単価は392円/kgで、前年および平年並みでした。浜田の地元小型船によるスルメイカ漁はここ数年低調となっています。原因としては来遊量の減少、魚価低迷、それに伴う漁獲努力の減少などが考えられます。

ケンサキイカ 2年連続の増加!

平成 15 年のケンサキイカの水揚量(11月までの集計)は190トンで、前年の1.6倍、平年の1.1倍と好調に推移しました(図2)。水揚金額は1億4,300万円で、前年の1.2倍、平年の84%と、量ほどは伸びませんでした。単価は751円/kgで、最近10年間で最低でした。ケンサキイカはイカ釣以外のまき網、底びき網などでも好調で、今年の来遊資源量は多かったと思われます。

浜田港のケンサキイカ水揚状況

前段では浜田の地元小型船の状況を示しましたが、小型船は漁場が沿岸域のため、島根県西部海域全体の状況を反映していない可能性があります。そこで、沖合域まで含めた海域全体のケンサキイカの水揚状況をみるため、浜田港におけるケンサキイカの水揚量を示します(図3)。11月までの総水揚量は953トンで平年の2倍となりました。

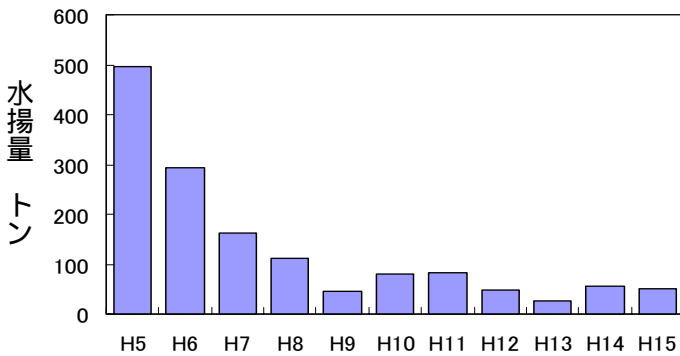


図1 浜田地元小型船によるスルメイカ水揚量 (平成 15 年は 11 月までの集計)

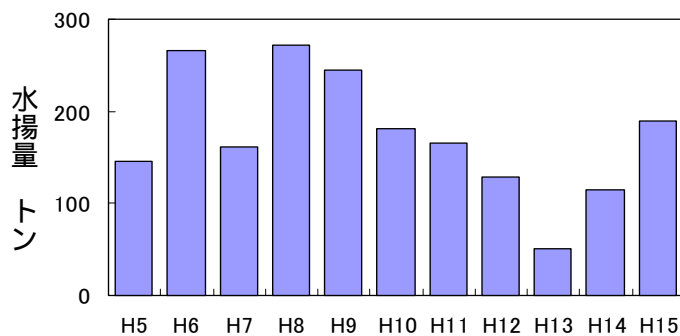


図2 浜田地元小型船によるケンサキイカ水揚量 (平成 15 年は 11 月までの集計)

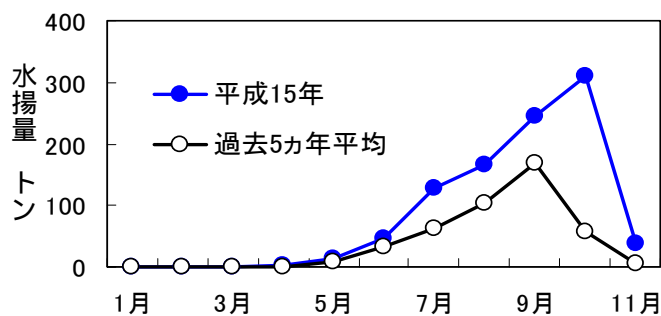


図3 浜田港におけるケンサキイカ月別水揚量

特に10月は平年の4倍となり、県外船の入港も増加しました。そこで、イカ釣船の所属別の水揚量の割合をみてみます(図4)。所属は浜田船、浜田外県内船、県外船の3通りに区分しています。これを見ると、県外船の占める割合が高く、盛漁期の6月以降は60%以上となっています。

日本海におけるスルメイカ資源の動向

漁場一斉調査結果

平成15年6月下旬から7月中旬にかけて日本海区水産研究所および各県の関係機関によりスルメイカの漁場一斉調査が実施されました。調査は日本海の我が国EEZ内のほぼ全域で実施され、実施した全ての調査点でスルメイカが採集されました。

今年のスルメイカの分布密度を示すCPUE(釣機1台1時間あたりの採集個体数)の全調査点の平均は16.88個体でした(図5)。この値は過去25年間の平均値(12.05)に比べると高いものの、資源が高水準になった平成9年以降では対前年比では平成10年に次ぐ大きな下げ幅となりました。

卵稚仔調査結果

日本海区水産研究所が平成15年10月に日本海西部から九州西岸海域においてスルメイカの卵稚仔調査を実施しています。図6に曳網点あたりの採集個体数の経年変化を示します。平成15年の曳網点あたり採集個体数は1.86個体で前年(2.67)を下回りましたが、スルメイカ資源が高水準である過去10カ年の平均値(2.0)と比べるとそれほど低い数値ではなく、今秋のスルメイカの発生状況は前年に比べると悪いものの依然として高い水準にあると言えます。図5に示した夏の漁場一斉調査の平均CPUEと比較すると、平成9年から10年にかけての関係を除けば両者は非常によく似た傾向を示しており、スルメイカの資源量を予測する上で重要な調査となっています。

【今後の島根県沖での漁況の行方】

日本海におけるスルメイカの資源量はここ数年高い状況が続いています。しかし、平成15年夏の漁場一斉調査では、日本海全域におけるスルメイカの資源量はここ数年の平均よりもやや少ないと判断されました。7月以降日本海各地での漁獲量は平年を下回っており、一斉調査の結果がそのまま反映された形になりました。今後の南下経路が大陸側の経路をたどれば、島根県沖でのスルメイカ漁は不漁に終わる可能性もあります。また、稚仔の調査結果でも発生量が比較的小さいことから、来年のスルメイカの日本海への来遊量も減る可能性があります。

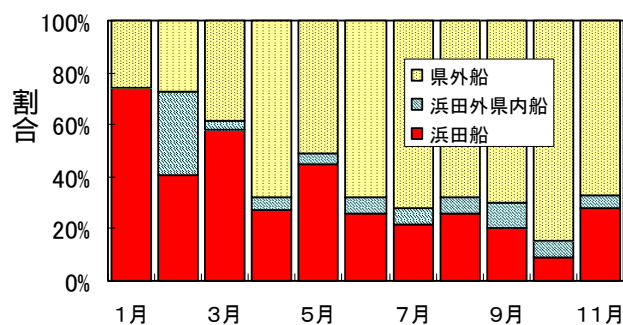


図4 浜田港に水揚げされたケンサキイカの所属別水揚割合

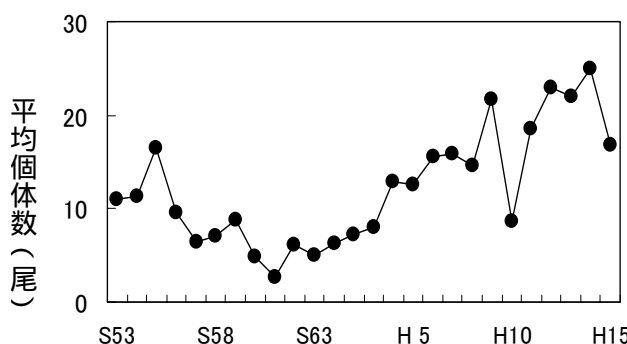


図5 CPUE(釣機1台1時間あたりの漁獲量)の経年変化

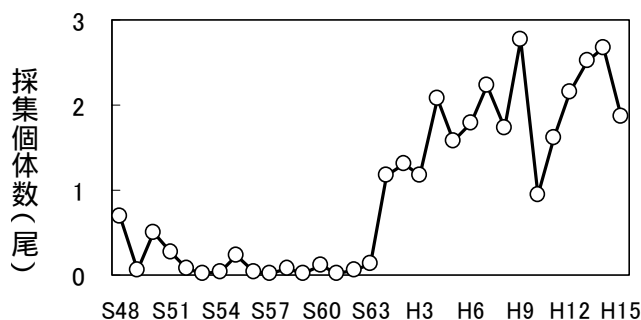
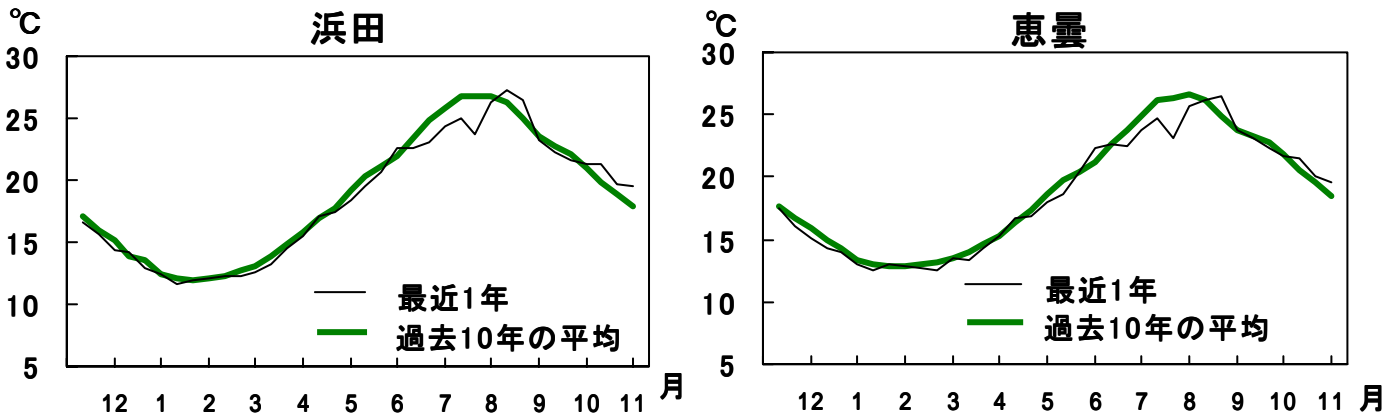


図6 スルメイカ稚仔の曳網点あたり採集個体数の経年変化

《 11月の海況 》

11月	月平均	平年差	評価
浜田	20.2	+1.3	かなり高め
恵曇	20.4	+0.9	やや高め

11月の月平均水温は浜田で20.2、恵曇で20.4と、先月から約1.7前後低下しました。11月に入って好天に恵まれたため、浜田、恵曇ともに平年を上回る結果となりました。



島根県・鳥取県の各水産試験場が実施した海洋観測結果（12/2～12/5）によると、各層の水温は、表層(0m)が15.2～19.7（平年差は-0.9～+2.2）、中層(50m)が14.8～20.0（平年差は-0.6～+3.0）、底層(100m)が12.1～19.7（平年差は-0.2～+8.1）となっています。

表層では先月より沿岸域で約3℃下降しましたが、島根県沖合域では水温が18℃もあり平年を2℃前後も上回りました。中、底層では、隠岐諸島の東方海域に見られていた山陰・若狭沖冷水域と浜田沖の島根沖冷水域が見られなくなり、隠岐諸島北方に勢力の弱い冷水域が見られるだけとなりました。島根県沖合域の水温は平年を3～8℃も上回り、沿岸から沖合まで暖かい水に覆われました。これは11月以降、対馬暖流の勢力が次第に強くなったためと考えられます。沖合海域まで暖水域がかなり広範囲を占めていることから、今後の漁場形成等には注意する必要があると思われます。

山陰沿岸海域の水温は、表層、中層、底層ともに「平年並み～かなり高め」となっています。

《 11月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ、サワラ主体に236トン、総水揚金額は5億9,089万円でした。1統当りの漁獲量は78.7トンで、平年(過去5ヵ年平均)の32%、前年の62%となりました。水揚金額は1億9,697万円で、平年の79%、前年の82%でした。西郷では、ブリ、ウルメ、マアジ主体に総漁獲量4,808トン、総水揚金額は2億9,579万円でした。1統当りの漁獲量は801トンで、平年の138%、前年の257%となりました。水揚金額は4億9,298万円で平年の108%、前年の167%となりました。浦郷ではブリ主体で、総漁獲量2,257トン、総水揚金額は1億3,564万円でした。1統当りの漁獲量は564トンで、平年の234%、前年の356%となりました。水揚金額は3,391万円で平年の162%、前年の182%となりました。隠岐地区ではブリが好調となっています。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカを中心に38.9トンで、前月に比べ量は減ったものの、平年(過去5ヵ年平均)の5倍と、11月としては好調な水揚げとなりました。西郷ではスルメイカ、ソデイカ、ケンサキイカを中心に58.8トンの水揚げで、平年の91%、前年の115%となりました。浜田に水揚げされたケンサキイカは2段半～3段半が主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田ではムシガレイ、アンコウ、恵曇ではヤナギムシガレイ主体の水揚げとなっています。1 統当たり漁獲量・水揚金額は前年に比べ、漁獲量で 16～32%、水揚金額で 23～27% 下回っています。アンコウ、ヤナギムシガレイは依然好調に推移し、平年の 1.7～3.2 倍の水揚げとなっています。一方、ソウハチ、キダイ、アナゴは低調に推移し、特に浜田におけるソウハチの漁獲量は平年の 10% に留まっています。

【小型底びき網漁業】

和江漁協ではイボダイ、キダイ、大田市漁協ではイボダイ、ニギス主体の漁となっています。和江漁協では 1 航海当たりの漁獲量・水揚金額とも前年を 19～29% 下回りましたが、大田市漁協では漁獲量は前年並み、水揚金額は前年を 24% 下回りました。両漁協ともイボダイが全漁獲の 20% を占めています。また、沖底同様にソウハチは低調であり、前年の 13～24% の水揚げに留まっています。

【定置網漁業】

県東部では漁獲量は前年および平年を上回りましたが、水揚金額は前年並みで平年を下回りました。県西部では漁獲量・水揚金額ともに前年を上回ったものの、平年を下回っています。隠岐では漁獲量は平年を下回りましたが、漁獲量・水揚金額ともに前年を上回り、水揚げ金額も平年を上回っています。

県東部ではブリが主体で、前年の約 7 倍の漁獲量となっています。その他ではカタクチイワシ、マアジなどが漁獲されています。県西部と隠岐ではマアジ、ブリが主体となっており、その他に県西部ではサワラ類、カマス、隠岐ではカワハギ類などが漁獲されています。

【釣・縄】

県東部では漁獲量は前年および平年並みでしたが、水揚げ金額は前年および平年を下回りました。県西部では漁獲量・水揚金額ともに前年を上回りました。漁獲量は平年を上回りましたが、水揚金額は前年並みとなっています。隠岐は漁獲量は前年および平年を下回りましたが、水揚金額は前年および平年を上回っています。

県東部と県西部ではブリが主体で、県東部では前年の約 10 倍の漁獲量となっています。その他に県東部ではサワラ類、県西部ではケンサキイカ、メダイなどが漁獲されています。隠岐ではソデイカが主体で、その他ではクロマグロ、メダイなどが漁獲されています。

漁獲統計

平成 15 年 11 月 1 日～30 日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1 隻(統)1 航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	32	マアジ・サワラ	7.4 ト	236 ト
	西郷	74	ブリ・ウルメ・マアジ	65.0 ト	4,808 ト
	浦郷	45	ブリ	50.2 ト	2,257 ト
イカ釣り (5 トン以上)	浜田	329	ケンサキイカ	118.2Kg	38.9 ト
	西郷	167	スルメイカ・ソデイカ・ケンサキイカ	352Kg	58.8 ト
沖底	浜田	28	ムシガレイ・アンコウ	9.3 ト	261 ト
	恵曇	23	ヤナギムシガレイ	4.1 ト	94 ト
小底	大田市	237	イボダイ・ニギス	679Kg	161 ト
	和江	359	イボダイ・キダイ	671Kg	241 ト
定置網	浜田	53	マアジ・ブリ・カマス	569Kg	30.1 ト
	美保関	90	ブリ・カタクチイワシ・マアジ	984Kg	88.6 ト
	浦郷	70	ブリ・マアジ・カワハギ類	187Kg	13.1 ト
釣・縄	浜田	1,303	ブリ・メダイ・ケンサキイカ	25Kg	33.0 ト
	五十猛	405	ケンサキイカ・ヒラマサ・シイラ	27Kg	10.8 ト

： 1 隻(統)1 航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。